



® 平成 29 年 10 月 19 日 (木)

No. 14552 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (27) … (1)

☆注目不正競争防止法判例紹介 [1] …… (10)

☆特許庁人事異動 …… (12)

地域における観光と知的財産の関連性 (27)

東京理科大学専門職大学院(MIP)

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

24. 秋田県湯沢市稲庭町(営業秘密、商標権)

近年、「日本三大うどん」の1つとして「稲庭(いなにわ)うどん」は広く知られている。

「稲庭」の地名の由来は、秋になり収穫の時期を迎える頃、この城の高台から見下ろすと一面の黄金色の稲穂が見えた。「これはまるで稲の庭…」と城主が感想を持ったことが「稲庭」の名前の由来

とされている。今でも高台に立つと頷く絶景である。

この稲庭うどんは江戸時代から作られているが、製造方法は一子相伝の「営業秘密」だった。明治時代初期には、内国博覧会などで受賞が続き、「地域の重要技術」と認識された。1972(昭和47)年、この一子相伝の営業秘密は家人以外の職人に公開され、量産化が可能となった。

化学・医薬・バイオ専門だから、ここまでできる

JAICI
化学情報協会

知財情報センター



0120-921-997

E-mail: ships@jaici.or.jp



SHIPS

特許調査 SHIPS



製剤、遺伝子、抗体、ポリマー、食品、飲料、化粧品等、何でもご相談ください

このうどんのルーツは「秋田県湯沢市稲庭町(いなにわちょう)」である。湯沢市には、稲庭うどん以外にも「川連漆器(かわつらしっき)」などの特産品がある。

(1) 歴史

この地域には古くから人が住み、縄文時代の遺跡が多数発掘されている。平安期の謎に包まれた才女「小野小町」は、湯沢市小野が生誕地と言われ、岩屋洞などの多くの史跡や伝承が守り継がれている。

中世に小野寺氏が秋田南部の雄勝郡を支配した頃から歴史の詳細が伝わっている。小野寺氏の出自は、下野国都賀郡小野寺郷(現栃木県)であり、その祖は藤原秀郷とされる。源頼朝の家臣である小野寺重道公が、平氏討伐に出陣し、大きな手柄をたて、この地を支配することになる。

1190(建久元)年、小野寺2代の道綱の代に、源頼朝より雄勝郡の地頭職を与えられ、道綱は第4子の重道を雄勝郡に派遣して統治させた。重道の子の秀道は出羽国田川郡大泉荘に居住していたが、その子の経道が建久年間(1249~56)頃、雄勝郡に入り、「稲庭城」を築いて本拠地としたとされる。

その後、小野寺氏は隆盛を極める。

経道には3人の子がおり、長男の忠道には稲庭城で家督を継がせた。二男の道直を西馬音内城に、三男の道定を湯沢城に配置し、それぞれ支配を強化させた。

そして忠道の子である道有の代には「雄勝・平鹿・仙北三郡の庄主」と称されるまで支配範囲が広がったという。

この勢力拡大に従って、支配の拠点を平野部の平鹿地方へ移す必要性が出てきた。そのため1300(正安2)年、道有は平鹿郡の沼館城に重臣である落合氏を配置して支配した。その後の16世紀前半頃に小野寺氏12代植道が居城を沼館城に移し、稲庭城は植道の弟である晴道が城主となった。その後、小野寺氏は居城を横手城に移したが、稲庭城は小野寺氏の有力な城として存在し続けた。

1590(天正18)年、豊臣秀吉によって奥羽仕置による検地が行われた。小野寺14代義道の上洛中に仙北地方で一揆が起こった。この責任を問われ、小野寺氏は所領を3分の2に減らされ、残りの3分の1は「蔵入地¹」となり、最上義光が代官に任じられた。1595(文禄4)年、最上義光は雄勝郡の領有を主張し、小野寺領に進攻して湯沢城と岩崎城を落とした。翌年、稲庭城も最上氏の侵攻を受けて包囲された。城主である小野寺上総介道勝は必死に防戦したが、稲庭城は落城した。道勝は辛くも落ち延びたが、稲庭城は廃城となった。

戦国時代の秋田・仙北地方の支配は、「秋田氏」、「戸沢氏」、「六郷氏」、「小野寺氏」などが治めていた。「関ヶ原の戦い」後、1602(慶長7)年、小野寺氏は領地を没収され、身分をはく奪された。鎌倉時代の初めから戦国時代にかけての約400年間、仙北地方を領有していた小野寺氏の時代が終わった。

代わって佐竹氏が入封した。以前の佐竹氏は常陸一国54万石の大名であったが、移動後の久保田藩は約21万石と半分以下と小さく、常陸以来の膨大な家臣団を抱えていた佐竹氏は財政面で慢性的に苦しい状態が続いた。1754(宝暦4)年、藩札発行に起因する「佐竹騒動」を初めとして、領民の一揆が多発するなど藩政は混乱した。

そんな中でも歴代藩主は「文教事業」に熱心に取り組んだ。三代義処は藩史編纂局「秋田史館」を、八代義敦(曙山)は「秋田蘭画」を、九代義和は藩校「明德館」を創設した。

明治維新に際しては、当初は「奥羽越列藩同盟」に参加していたが、平田篤胤の思想をなぞる尊攘派が形成されていたこともあり、仙台藩の使者を斬ったうえ明治政府側に寝返った。これによって列藩同盟の攻撃を受けたが、明治政府が派遣した佐賀藩兵の助けもあって持ちこたえた(秋田戦争)。

四面楚歌の状況下で錦の御旗を守ったこの事実は成田為三作曲の「秋田県民歌」の三番にも記されているが、「戊辰戦争」で朝敵とされた旧南部領である鹿角郡や旧亀田藩の流れをくむ由